

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第242号 2014年11月8日

OCHADAI GAZETTE Autumn, 2014



写真：滝脇 綾 (生活科学部 人間生活学科3年)

女性の活躍の場を広げる

CONTENTS

TOPICS

- | | |
|--|--|
| 学長からのメッセージ…………… 1-2
「女性の活躍促進」のために | 附属学校園からのお知らせ…………… 7-8 |
| 学生のアクティビティ…………… 3-4 | キャンパス点描…………… 9-10 |
| 教員紹介…………… 5
● 井上 登喜子先生
(人間文化創成科学研究科文化科学系比較社会学専攻) | ● 学部オープンキャンパス2014を開催しました。
● ジャパンダイバーシティネットワークに加入しました。
● お茶の水女子大学認定こども園(仮称)の開設に向けて、お茶の水女子大学と文京区が協定を締結しました
～国立大学の「知」を地域の保育・幼児教育へ～ |
| 卒業生紹介…………… 6
● 西出 由香さん
(文教育学部卒業) | |



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

「女性の活躍促進」のために 学長からのメッセージ



微音塾開講式

女性の社会的活躍への期待が高まっている。

この状況に対して、国立の女子大学であるお茶の水女子大学は、グローバルな視点をもってリーダーシップを發揮できる女性の育成のために様々な取り組みを行っている。その一端をご紹介します。

『「日本再興戦略」改訂2014』（6月24日閣議決定）では、「2020年に指導的地位に占める女性の割合30%」という数値目標が設定された。また、先月（10月10日）には、「すべての女性が輝く政策パッケージ」が公表され、関連する法案も整備されることになっている。

女性の社会的活躍が課題とされるに至った背景には、世界的な経済状況に加えて、2012年にIMF年次総会が東京で開催された際に、専務理事のラガルド氏が、女性の継続就業が可能な環境の整備が日本経済を改善する、と発言したことがある。さらには、世界経済フォーラムが毎年発表しているジェンダー・ギャップ指数（GGI）の国際順位が年々下降し、2014年には日本の順位が142か国中104位となったことも影響している。GGIは、経済活動、教育、保健、政治の四分野に関する男女格差の状況を数値化したもので、日本は、このうち教育、健康に関するスコアは高いものの、経済活動、政治への関与の点で著しく低い。これとは別に、国連開発計画（UNDP）による「人間開発報告書2014」の人間開発指数（HDI）では、日本の順位は187か国中17位である。人間開発指数は、保健、教育、所得の三側面によるその国の平均達成度から順位付けされたものであり、この順位と比較しても、女性の経済活動や政治への参画が重要な意味をもっていることがわかる。

また、女性の活躍が経済を活性化させ生産性を向上させることや、女性が30%以上を占めると組織が変わるということも経験的に示されてもいる。

そこで、国際的な状況からも、経済の活性化の点からも、女性の社会的活躍が期待されるのである。

この状況に対して国立の女子大学である本学がなすべきことは、指導的立場で活躍する女性の育成である。とはいえ、本学は創設以来この役割を担ってきている。

お茶の水女子大学は、その前身である東京女子師範学校が1875年に設置され、来年創立140年を迎える。この間、本学で学んだ多くの女性が教師として教育界を支え、女性研究者として実績を積み、貴重な足跡を残している。教育組織を創立させた卒業生や先駆的な女性研究者が多く、中でも、卒業生の会である桜蔭会が、関東大震災翌年に桜蔭学園を開設させたことはその象徴でもあり、研究の分野では、女性で初めての理学博士や農学博士も本学の出身者である。

そして最近では、本学の卒業生の活躍分野は教育界、研究界に限らず行政機関や産業界、メディアなどにも拡大している。

先日男女共同参画推進連携会議が開催され、そこに議員として参加した時のことである。そこでは、企業、教育機関、報道機関、国際機関や自治体の男女共同参画のリーダー18名が有識者として名を連ね、そのうち女性12名の中の4名が、議長、副議長を含めてお茶大の卒業生であった。また、これとは別に、女性4名のうち3名が本学の卒業生という審議会もあった。学外の会議などで出会う女性の委員が本学出身者であることは多く、しかも多様な職種の人々であり、お茶大生の活躍の幅は確実に広がっている。

社会的に活躍する卒業生が多く、しかも活躍の場が多岐に亘っていることを考えると、この社会的状況も考慮した教育の改革が必要なことは明らかであり、その改革を本学は不断に実行してきた。



ジャパンダイバーシティネットワークキックオフシンポジウム

新入生を対象に本学の教育や研究の特色などを講じる「お茶の水女子大学論」の学生のリアクションペーパーには、「先を見た教育プログラムを導入していて、学生の目的意識が高く、誇りに思う」、「小さな大学でも大きく学べることがわかった」などと書かれたものがある。

法人化後の10年、本学ではとくにグローバル女性リーダーの育成を使命として、新たな教育体制を構築してきた。

まず、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」教育と、「複数プログラム選択履修制度」による専門教育がある。これは、「深い」教養と「広い」専門性を身に付けてリーダーシップを発揮できる女性の育成を意図したものであり、これに加えて、女性リーダーの育成を主眼としたキャリアデザインプログラムがある。このプログラムは、本学の学生が主体的で自立的であることによっていっそう有効に機能しているといえる。またリーダー育成という点では、モデルとなる多くの卒業生の存在は大きい。

グローバル化に対応した取り組みとしては、語学力を強化する教育プログラムの新設と環境の整備、留学機会を拡大するための四学期制の導入、留学のための経済支援基金の新設、がある。中でも、国立大学として最初のケースとなった四学期制は今年度から開始したが、留学促進のためのこのような教育環境の整備は、学生の約7割が留学を希望しているという本学の状況からして極めて意義あるものと考えている。

さらに、大学院博士課程では、理系分野で産業界との連

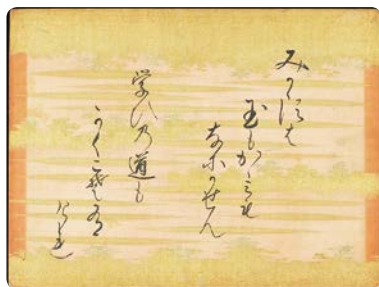
携を強化するために「博士課程教育リーディングプログラム」を昨年度開始した。これは、理工系の博士人材を育成し、教育研究機関に限定することなく女性の活躍の場を拡大しようという試みである。

研究機関としては、「女性の活躍」そのことを研究対象としてそれを効果的に促進させることも必要である。つまり、グローバルな視点をもってリーダーシップを発揮できる女性を育てることに加えて、その手法や効果、社会的文化的意義についての研究も重要である。そこで、来年度新たに「グローバル女性リーダー育成研究機構」を本学に開設する。この研究機構は、国際的な女性リーダーシップ研究の拠点となって真に豊かな社会の構築に貢献することを目指す。女性の活躍は、単に「指導的地位に占める女性の割合30%」という数値目標の達成だけではなく、新しい価値や考え方を社会に提供するという点でも有意義であり、そのための教育研究を担うことも本学の重要な役割と考えるからである。

お茶の水女子大学の教育と研究の基盤をさらに堅固なものとし、本学で学んだ学生が、高度な知識を身につけ、事に当たって適切に判断できる能力と寛容さを備えて、広く社会で活躍し、豊かな未来の創造に貢献することを心から期待しています。

2014年10月

国立大学法人 お茶の水女子大学長 羽入 佐和子



校歌「みがかずば」

「女性の活躍促進」のために
学長からのメッセージ

学生のアクティビティ

「秋は短し 弾けよ乙女 熱きお茶の 冷めぬ間に - The 65th Anniversary -」
 11月8日(土)、9日(日)に開催される徽音祭(きいんさい)。
 徽音祭に込められた熱い想いを実行委員の皆さんに聞いてきました。

きかせて

徽音祭実行委員

- Q① : どのような仕事を担当していますか? 意気込みは?
 Q② : 今回のテーマに入れた思いとは?
 Q③ : 徽音祭に来た方へ一言。

委員長

備本 梨加



- ① 徽音祭全体の責任者を担っています。委員長として外部の方との交渉や広報にも精力的に取り組んでいます。また、なるべく近い委員長でありたいと思い、夏休みにはバーベキューを開催しました。仲間がどんなことをしているのか、自分がどんなアプローチができるかを常に考え、実行委員みんなで徽音祭を盛り上げていきたいと思っています。
- ② 皆様のお耳になじみのあるフレーズを、わたしたちらしくアレンジしました。一年に一度のお祭りを、自分らしく弾けよう! 楽しもう! というメッセージをこめて、一言一言みんなて練りながら今回のテーマを決めました。また、The 65th Anniversary をメインテーマに加えることにより、皆様から親しまれてきた徽音祭の65周年を祝うとともに、これからの徽音祭への架け橋になりたいという思いを表しています。
- ③ 皆さんに楽しんでいただける企画を数えきれないほどたくさん用意いたしました。そのひとつひとつに、皆さんに楽しんでいただきたいという思いが込められています。看板一つをとってもたくさんの時間と工夫をかけて作成しました。ぜひ徽音祭を丸ごと楽しんでください!!

副委員長

小森 梨恵



- ① 副委員長は2名おり、私は緊急対応と当日のシフト作成を担当しています。当日に起こるかもしれない様々な出来事に備え、準備を行っています。当日裏方の担当になった1年生も楽しんで参加できるような取り組みを考えています。
- ② 皆さんに親近感を持っていただけるようなキャッチフレーズにしたいと思いました。実行委員や参加団体のメンバーはもちろんのこと、当日は参加できないお茶大生にも何らかの形でかかわってもらい、みんなではじけたいと思っています。
- ③ 秋は短く、乙女たちの個性も弾けているのでぜひ素敵な二日間をお過ごしください!!

渉外部
局長

佐藤 芽衣



- ① WEB、編集、広告協賛、物品協賛、広報、装飾の6つからなる渉外部局を統括しています。もっと多くの方に徽音祭を知ってもらいたいと思い、今年から個人協賛を始めました。また、ミラーやパンフレットの袋も65周年仕様としました。
- ② お茶大に関わるフレーズをいれたいと思い、「熱きお茶の」をいれました。今年初めての取り組みとしてテーマカラーを決めました。今年のテーマカラーは「朱色」です。ホームページも朱色一色になっているのでぜひご覧ください。
- ③ 装飾、パンフレット、景品などそのすべてに私たちの1年間が詰まっています。ぜひ一つ一つを細かく見て、そのすべてを楽しんでください!!

委員長・渉外部局長とのエピソード

時はさかのぼり、備本委員長と佐藤渉外部局長が1年生だったときのこと。当日のグランドフィナーレの達成感に感極まった備本さんが冗談まじりに「委員長やろうかな」といったところ、それを信じた佐藤さんが「それなら私も続ける」と決意し、備本さんもその想いに応えるため宣言通り委員長になったそうです。かけがえのない友人が得られることも微音祭の魅力なのですね。

ランキング

現在 SNSによる学園祭対抗応援合戦に参加中です！ 応援よろしくお願いたします!!

SNS 応援団コンテスト 微音祭 検索

はっぴの写真

ピンク地に「茶」の一文字が目立つ、微音祭実行委員の法被です！ この法被に憧れて委員になる人も多いのだとか…。当日は、この法被を見かけたらお気軽にお声がけください。

かがみの写真

法被をモチーフにした、第65回微音祭特製ミラーです！ ここでしか買えない、特別なグッズをお見逃しなく。ポケットサイズでどこでも微音祭気分が味わえます。

テーマカラー

装飾今年の微音祭テーマカラーは、「朱色」です。テーマに沿った和とポップの融合した明るく楽しく、華やかながら統一感のある、お茶大らしい装飾です。正門・階段装飾や立て看板など、委員一同頑張って製作いたしました！ ぜひご覧ください。

水コン

9日(日) 13:30 ~ 16:00 お茶の水女子大学内特設ステージにて

水コンとは「お茶大生が憧れるお茶大生NO.1」を決める微音祭の一大イベントです。見た目も中身も素敵なお茶大生5名が登場！ 審査員と来場者の方々の投票によりグランプリ、準グランプリを決めます。5名の個性あふれる自己PRにも注目です！

また今年は微音祭65周年ということで、昨年のミスインターナショナル日本代表 高橋有紀子さんに特別審査員をつとめていただきます！

65周年にぴったりの華やかなステージをお楽しみください。

会計

橘 美沙



①

全体の会計を管理しています。他大学は会計部があって人数も多くいますが、お茶大では1人で担当しています。昨年までは繰越金が作れなかったため、今年はこの微音祭がこれからもずっと続いていけるように節約を重ね、次年度以降につなげる資金作りを頑張りたいと思っています。

②

1、2年生の時に企画担当として関わりました。その時に、ゼミ発表などの盛り上がりを見て、学内の団体の頑張りがあつたらもつと良い微音祭になると思い、もつと良いものを作りたいと強く思いました。お茶大のことをまだよく知らない方にもお茶大の魅力をもつと知ってほしいという熱い想いを込めました。

③

最高のパフォーマンスができるように今日まで一人ひとり頑張ってきました。お茶大生の新しい魅力を見つけてもらえたらうれしいです!!

企画

島村 彩香



①

微音祭で開催するイベントの企画・運営を担当しています。昨年よりもいいものにすべく、日夜会議を重ねています。昨年は1年生だったので先輩の指示に従うだけでしたが、今年は仕事を指示する立場になり、仕事を全体で考えるようになりました。

②

「秋は短し、弾けよ乙女」微音祭の準備は一年をかけて行いますが、お祭りは2日間だけの短い間です。その2日間に今までのすべてをぶつけよう!! という想いを込めました。

③

この日のためにイベントの企画を磨いてきました。全部の企画をぜひ楽しんでもらいたいです!!

編集

興梠 侑



①

来場者の方にお渡しするパンフレットの作成を担当しています。忙しい各担当者に締切を守ってもらえるように急かすのはなかなか難しいですが、初めてお越しになる方や、お茶大のことを知らない方にお茶大の魅力が伝わるように一生懸命取り組んでいます。

②

お茶大生のイメージは「勉強」「閉じこもり」など消極的なものだと思います。お茶大生の明るく、活発で行動力のある一面も皆さんに知ってもらいたく、「弾けよ乙女」で表現しました。

③

この二日間のために、お茶大生一丸となって準備してきました。ぜひすみずみまで残すところなく微音祭をお楽しみください!!

教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科文化科学系比較社会学専攻の井上登喜子先生をご紹介します。井上先生は、大学院では比較社会学専攻音楽表現コース、また学部では文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現コースご所属です。

無名の大衆の視点から 音楽を研究する

我を忘れて熱中する何かを求めて



Inoue Tokiko
井上 登喜子

Q ご出身ご経歴等について 教えてください。

出身は、東京です。本学とのご縁は、お茶大附属高校に遡ります。小さい頃から3歳年上の姉と一緒にピアノやソルフェージュを習っていました。実技中心の音楽大学はたくさんありますが、実技と音楽学の両方を学ぶことのできる大学は、お茶の水女子大学だけと思い、中学生の頃から進学を心に決めていました。それで同じキャンパスなら大学の様子も分かるのではないかと、お茶高を受験したのです。大学時代は演奏実技と勉強に明け暮れる日々を送り、大学院では、演奏する機会の多かったロマン派のシューマンを修士論文の研究対象としました。いろいろ調べるうちに、シューマンがドイツのドレスデンに住んだ時期に、アマチュアの合唱団を設立・運営し、地域の人々と交流していたことを知りました。従来の音楽学では作品を対象とした研究は多かったのですが、シューマンとともに合唱活動に携わった「無名の人々」の存在を知り、「音楽の社会史研究に取り組みたい」という気持ちに駆り立てられました。すぐにドイツ語を特訓し、資料収集のためにドレスデン近郊にあるシューマン研究所に足を運び、修士論文を書き上げました。博士後期課程に進学してすぐに、当時留学中の夫がいるアメリカで1年3ヵ月を過ごしました。ハーバード大学のクリストフ・ヴォルフ教授(パッサ研究)の指導を受けたり、若手研究者とディスカッションしたりと、よい経験になりました。帰国後は、シューマンゆかりの都市ドレスデンの合唱協会を広く調査するようになりました。西洋音楽史の表舞台には登場しない、アマチュアの音楽的営みを当時の社会的、文化的脈絡において捉えたいと考えたからです。19世紀ドイツにおける市民の合唱活動の音楽

社会学的研究として博士論文にまとめました。博士号取得後は本学大学院助手を2年間勤めた後、前任校の東邦音楽大学で9年間教員をしました。今年の4月に本学に着任し、学生からも先生方からも研究に向かう刺激を日々頂いています。

Q 先生のご専門は何ですか？ また研究の内容と、なぜその ような研究をするように なったのか、教えてください。

音楽学、特に西洋近代音楽の受容について研究しています。博士論文から引き続き、歴史上の記録に名を残さない大衆が、いかに音楽と向き合い、音楽を享受し、再創造することによって音楽文化を担ってきたのか、その意味を探りたいと研究しています。現在は、こうした受容研究の視点に加え、データベース構築と統計的手法を用いた実証分析を導入し、日本と海外のオーケストラのコンサート活動の国際比較に取り組んでいます。また、音楽の聴取の問題にも関心を持っています。19世紀のロマン主義哲学とドイツの国民国家形成という社会状況の双方が、西洋近代の交響曲聴取をどのように形づけたのかを論じた研究書を翻訳し終えたばかりです(お茶の水女子大学名誉教授 近藤謙先生との共訳。近日刊行予定)。

Q ご趣味などはありますか？

ミュージカルが好きです。小学校2年生の時に初めてテレビで見たサウンド・オブ・ミュージックに感動して、小学生の頃は脚本、作曲、出演、録音を1人で全部行うミュージ

カルごっこで遊んでいました。附属高校ではミュージカル好きの友人と一緒に有志のグループを立ち上げ、お茶大のミュージカル・サークルの結成にも関わりました。

また最近、小学校5年生の息子に付き合っ、サッカー観戦、キャンプやスキー、山登りが趣味になりました。おかげで、1人でテントも立てられるようになりました。息子を出産したのは助手時代です。息子と共に登校し、当時できたばかりのいずみナーサリーに息子を預けて仕事をしていました。いずみナーサリーがなければ安心して働くことはできなかつたと感謝しています。

Q お茶大生の印象は？ お茶 大の学生にメッセージを

お茶大生は、まじめで優等生が多いように思います。学業についてはもちろん、人生設計もきちんと考えている人が多いですね。それは女性が長く活躍し続けるために必要なことだと思います。とはいえ、人生は計画どおりにいかないこともしばしばあります。そういう状況も愉しむくらいのつもりで、前向きに歩いていけるしなやかな強さを身に付けてほしいと願っています。そのためにも、学生の間は、失敗を恐れず、我を忘れて熱中するような何かをもつことが、その後の人生につながっていくのではないかと考えています。学生の中にはユニークな発想を持つ人も多く、そんな学生達と一緒に、音楽学に新規性を打ち出す独自の研究を続けていきたいと思っています。

文責：水村 真由美
(大学院人間文化創成科学研究科
文化科学系 准教授)

卒業生紹介

「人」と「人」を結ぶ ～国際交流のスペシャリスト～

Nishide Yuka
西出 由香

外務省大臣官房人物交流室
課長補佐

1994年お茶の水女子大学文教育学部卒業。同年、外務省入省。95年から99年までチェコ共和国にて在外研修および日本大使館勤務。以降、本省勤務。2013年から現職。岡山県出身。

ロールモデルとの出会い

外務省に入ってから20年。西出由香さんは、現在、大臣官房人物交流室で課長補佐として、「JETプログラム(The Japan Exchange & Teaching Programme)」の推進に力を注いでいる。JETは日本全国の小、中、高等学校で外国語の指導に従事する青年や、地方自治体に勤務する「国際交流員」を日本に招致するプログラムで、今年28年目を迎える。来日したJETプログラム参加者と地域の住民とは様々な形で相互交流を深め、帰国後もその絆は引き継がれていくという。「グローバル化の進展に伴い、広報や文化交流を通じて一般市民に直接働きかける外交、いわゆる『パブリック・ディプロマシー』と呼ばれる活動がいまとても重要になってきています」と、西出さんはその意義を語る。

大学3年生の秋、西出さんは学内の就職説明会で、「外務省専門職員」として勤める卒業生の話聞いた。「こういう職業があるんだ。私にもできるかもしれない」。元々、得意な英語をいかせる仕事に就きたいと漠然と考えていた。働くモチベーションを高く維持するために、「公に、人のために働きたい」という思いを抱いていた。さらに、公的機関では女性が働き続けるための制度が整っている。「ロールモデルは大切ですね。この出会いがなかったら可能性に気付かず、今の自分はないかもしれません」

チェコ専門家への道

外務省専門職員は、高い語学能力を有し、特定の地域の社会や文化、歴史等に通じたスペシャリストとして活躍することが期待される職種だ。外務省が独自に実施する採用試験は難関で狭き門として知られる。西出さんは

専攻の英語・英文学では学ぶ機会のない国際法、経済、憲法などを独学で勉強する一方、公務員試験対策予備校にも通い、こつこつと準備をすすめた。

1994年、晴れて外務省入省。同期は57名。この年は、女性が一気に増え、半分を超えた。入省後は約40言語の中から研修語が割り当てられる。西出さんは希望言語ではないチェコ語だった。生まれて初めて触れる言語を習得するため、1年間は実務を覚えながらマンツーマンで集中研修に励んだ。チェコ語は文法が複雑だが、それをマスターしないと辞書すら引けない。そもそもチェコ語と日本語のきちんとした辞書も無いなか、英語を介して日本語に訳す方法で語彙を頭にたたきこんだ。2年目は在外研修でチェコの首都プラハへ。2年間現地の大学などに通い、外交面で通訳が勤まるレベルまで磨きをかけなければならぬ。研修後はいよいよ外交官としてのスタートが待っている。在チェコ日本大使館で広報文化班に配属され、日本文化の紹介や要人のチェコ訪問への対応に従事。通年4年半をプラハで過ごし、1999年に帰国した。

働き方を変えてキャリアを積む

西出さんの朝は早い。ピラティスのレッスンを受ける曜日以外は7時半にはオフィスに到着し、日中はひたすら仕事をこなす。チェコから本省に戻って以来、現在のポストに至るまで、3、4年ごとに経済局漁業室、欧州局中・東欧課、第二国際情報官室と3つの部署を異動し、さまざまな経験を積んだ。多岐にわたる業務をこなすため遅くまで職場で働く

こともあったが、育休が明け職場復帰を機会に働き方を全面的に変えた。西出さんにとってのターニングポイントはこの時期だ。心掛けたのは、「集中、用意周到な準備、無駄を省いて成果を出す」こと。保育園、学童保育などを利用しながら、「早朝出勤、早めの帰宅」のワーキングスタイルはすっかり定着した。

隙間の時間を有効に使って、今でも昼休みにチェコ語のフォローアップ研修を受けている。古都プラハで外交官としてのキャリアを踏みだして以来、仕事を続けるうえでの大きなやりがいは、「個人と個人、国と国の友好関係が一步でも前進したと実感できる瞬間に立ち会える喜び」だという。

外交官として必要な要素を尋ねると、「好奇心と飛び込んで行った時の相手とのコミュニケーション能力」という答えが即座に返ってきた。私たちが「パブリック・ディプロマシー」を実践するときも同じ心意気で臨みたい。

文責：坪田秀子(学長特命補佐)

わたしのオフタイム

今年は「和」がテーマ。省内のサークルで煎茶の茶道を始めたのに続き、和菓子作りの教室にも通っている。海外に出た時に日本文化の一環として紹介できたらと、趣味と実益を兼ねて楽しんでいる。

附属学校園からのお知らせ

附属高等学校便り



イオン1%クラブ
アジア・ユースリーダーズ
(ベトナム)



田植えの体験



大気汚染の観測

最優秀チームの表彰

「スーパーグローバルハイスクール」の指定を受けて

附属高等学校は今年度、文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール」(以下SGH)の指定を受けました。

SGHとは、「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」という目的のもと、「国際化を進める国内の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進める」文部科学省の事業です。

本校は「女性の力をもっと世界に～目指せ未来のグローバル・リーダー～」をテーマとし、自国の文化を含む多文化理解、共感性、協働精神を有し、国際社会の平和と持続可能な発展に寄与する意欲と能力を持つ、グローバル女性人材の育成を目標に掲げています。

こうした人材育成の土台になるのが、本校の特長である教養教育です。お茶の水女子大学の教育研究の資源を日常的に活用できるというめぐまれた環境の中で、学校設定科目「教養基礎」を含む幅広い必修科目を履修することにより、グローバルな諸課題の発見・解決に必要な、確かな基礎学力と広い教養を身につけることを目指しています。

この教養教育の上に、SGHの新たな科目・講座が設けられています。1年生に学校設定科目「グローバル地理」、2・3年生の総合的な学習の時間に「持続可能な社会の探究Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として開講します。全校生徒が3年間を通じてグローバルな諸課題を探究的に学ぶことで、持続可能な社会に寄与する意欲と能力を養っていきます。

さらに、社会の諸課題への関心およびそれらを解決しようとする意欲の高い生徒を対象に、2年生の総合的な学習の時間に「グローバル総合」を開講し、海外研修を含めたより具体的、実践的な学習を行います。今年度は「国際協力とジェン

ダー」、「経済発展と環境」、「国際関係と課題解決」の3講座が開かれ、8月にベトナム(ハノイ)で行われたイオン1%クラブ主催 アジア・ユースリーダーズに6名、10月の台北研修に29名の生徒が参加しました。3年生にも「グローバル総合アドバンス」をおき、2年次までの学習成果を深め、発信することを目指しています。

SGHの事業では大学、NGO、企業などとの連携も進めます。従来から「教養基礎」を中心に、お茶の水女子大学の先生方による特別授業が行われてきましたが、SGHの科目・講座でも大学の先生方から専門的なお話を伺う機会が多く設けられています。イオンや日本IBMなど企業の方々による授業も企画されている他、12月にはアウトドアウェア/スポーツウェアブランド「パタゴニア」日本支社長、辻井隆行氏による特別授業(家庭科)も予定されています。また10月には、国際NGOプラン・ジャパンが国連の国際ガールズデーのイベントに招請したネパールのユースによる講演、交流イベントが、本校でも行われました。途上国の妊産婦と女



校長先生による特別授業



大学の先生によるキャリアガイダンス



日本IBMと連携した授業



北一女(台湾) 数学の授業に参加



お茶の水女子大学付属高等学校

2014年10月9日
国際NGOプラン

プラン・ジャパン 国際ガールズ・デー記念イベント



講演会の様子



ネパールの2人のユース

性を守る活動をしている、日本生まれの国際協力NGOジョイセフによる特別授業(地理)も12月に予定されるなど、NGOとの連携も深めています。

既存の教科目とSGHの科目・講座との連携もグローバル人材育成の重要な柱の一つです。

海外の学校との交流も進めており、5月にはタイのチュラーロンコーン大学附属高校の生徒16名が来日した際に本校を訪れ、短い時間でしたが生徒と交流を持ちました。今後も同校や台北研修で訪問した臺北市立第一女子高級中學(北一女)などと、相互訪問やICTを活用した交流を続けていく予定です。



北一女との交流会

臺北賓館前にて北一女の生徒と



附属学校園での出来事 (2014年7月~10月)

【いずみナーサリー】

7月

- 避難訓練(地震)

8月

- すいかわり
- 避難訓練(不審者対応)
- ライフ×アート展参加

【附属幼稚園】

7月

- いきもの博物館
- 1学期終業式
- 夏季休業日始め
- 年長組親子飼育栽培のため登園(希望者のみ)

8月

- ライフ×アート展参加

9月

- 2学期始業式
- クラス懇談会
- 誕生会
- 避難訓練(3歳児・4歳児小学校校庭で引き取り訓練)
- 4歳児遠足(ギャラクシティ)

10月

- 運動会
- サツマイモ堀り(5歳児)
- 親子で遊ぶ日(4歳児)
- 遠足(3歳児)

【附属小学校】

7月

- 防犯教室
- 1学期終業式
- 夏休み開始日

8月

- 登校日(4・5・6年)
- 林間学校(4・5・6年)

9月

- 2学期始業式
- 卒業生のお話を聞く会(5年)
- 不審者対応訓練
- 水泳終了
- 校外学習(1年)
- 開校136周年記念日
- 学校説明会

10月

- 衣替え
- 校外学習(2年)
- 避難訓練(二次避難)
- 学校説明会
- 郊外園活動(3・4年)
- 給食試食会

9月

- 避難訓練(引き取り)

【附属中学校】

7月

- 志賀高原林間学校(2年)
- 夏休み開始日

8月

- 本学サマープログラム参加
- 夏休み修了
- 生徒登校日

9月

- 第3回学力テスト(3年)
- 郊外園(2年)
- 自主研究講堂発表
- 授業参観日
- 生徒祭

10月

- 前期期末テスト(~10月3日)
- 前期終業式
- 秋休み
- 始業式、後期開始日

【附属高校】

7月

- 保護者会・保護者懇親会
- 1学期終業式
- 夏季休業

8月

- 東工大サマーチャレンジ
- アジア・ユースリーダーズ
- 学力テスト(3年)

9月

- 2学期始業式
- 学力テスト(3年)
- スタディーサポート(1・2年)
- 文化祭
- 学校説明会
- 進路講演会(2年)

10月

- 秋季身体計測
- 国際NGOプラン・ジャパンの講演会
- 自治会選挙・総会
- 中間考査
- 1年農業実習(サツマイモの収穫)
- 台北研修旅行(2年生29名)
- ダンスコンクール

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

学部オープンキャンパス2014を開催しました



2014年7月19日(土)～21日(月・祝)の3日間、学部オープンキャンパスを開催しました。連日の猛暑の中、6,000名を超える受験生や保護者の方々にご参加いただきました。

全体説明会では、羽入佐和子学長から躍進するお茶大の紹介と受験生へのメッセージ、続いて耳塚寛明教育機構長から多様な入試制度、お茶の水女子大学の特徴的な教育プログラムである「複数プログラム選択履修制度」や「文理融合リベラルアーツ教育」、多岐にわたるグローバル教育、本学独自の奨学金、学生寮など



についての説明がありました。その後、学部長による学部・学科の説明があり、皆さん熱心に耳を傾けていました。

全体説明会後には、各学科・講座・コース別に、模擬授業や在学生による相談、研究室ツアーなど工夫を凝らしたプログラムが用意

お茶の水女子大学認定こども園(仮称)の開設に向けて、お茶の水女 ～国立大学の「知」を地域の保育・幼児教育へ～



お茶の水女子大学と文京区は、2014年9月29日(月)に合同記者会見を開催し、2016年4月1日(予定)に認可保育所に幼稚園機能を備えた区立の「お茶の水女子大学認定こども園(仮称)」を大学の敷地内に開設することを発表しました。

お茶の水女子大学は、2015年に創立140周年を迎えます。本学は、明治9年創設の日本で最も古い幼稚園を有し、わが国における幼児教育・保育に関する教育研究拠点として、研究資源を集積するとともに人材育成に尽力してまいりました。

認定こども園は、就学前の子どもたちに教育と保育を一体的に提供し、また地域の子育て支援を行うことを目指した新しい施設ですが、お茶の水女子大学にとって、幼児教育・保育に関する教育研究の場でもあり、誕生から死までの生涯発達を見据えた0歳児からの教育カリキュラムを開発するなど新たな実践研究を行うとともに、望ましい教

ジャパンダイバーシティ ネットワークに加入しました

され、ピンクのTシャツを着たアシスタント学生が大活躍。どのプログラムも大盛況で、参加者から活発な質問が飛び交っていました。



お茶の水女子大学は、「ジャパンダイバーシティネットワーク」に加入しました。このネットワークは、「Diversity is the Game Changer.」のスローガンのもと、女性活躍推進に取り組む公益法人/業界団体/NPO/NGO/経済団体/教育機関/地方団体等、各種団体が連携して活動するプラットフォームとして設立された一般社団法人のネットワークです。

お茶の水女子大学と様々な団体が連携することで、本学のみならず日本における女性活躍の推進を加速させ、女性が輝く社会の実現に取り組んでいきます。

9月19日（金）に開催された「一般社団法人ジャパンダイバーシティネットワークキックオフシンポジウム」では、羽入学長がパネリストとして登壇しました。

子大学と文京区が協定を締結しました

育環境を探求し、その研究成果を発信してまいります。

将来的には、幼児教育と保育に関わる教職員や行政担当者、子育て支援に関心を有する方々のネットワーク拠点として、幼児教育政策の立案に貢献できることを目指しています。

開設にあたっては、大学と区との間で子育て支援の推進に関する協定書を締結した上で、大学と区が積極的に協働し、区民への質の高い保育サービス・幼児教育の提供により保育所待機児童の解消を図るとともに、大学における教育研究活動の実践と成果の社会還元を通じた文京区全体の保育サービス・幼児教育の質の向上を目的に実施するものです。

なお、当該認定こども園の運営については、大学が業務全般を区から委託を受けて実施します。





お茶の水女子大学学报 第242号

▽発行日：2014年11月8日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。